

・実行方法（c言語を動かせる環境が必要です。）

1. make コマンドにてコンパイルする。コンパイルされた自作コンパイラは compiler という名前のファイルである。

```
user@cse:work> make
```

2. 次のコマンドにて、ソースプログラムを自作コンパイラでアセンブリ言語にコンパイル

する。コンパイル結果のアセンブリ言語は a.asm2 という名前のファイルである。

```
user@cse:work> ./compiler ソースプログラム名
```

3. 次のコマンドにて、アセンブリ言語ファイルをアセンブルして、仮想計算機で動作する ファイルを作成する。仮想計算機用のファイルは a.out という名前のファイルである(自由に変更してよい)。なお、付録 B.2 も参照してください。

```
user@cse:work> ~/p1/bin/asm a.asm2 > a.out
```

4. 次のコマンドにて、仮想計算機(sr)を用いて実行する。なお、付録 A.5 も参照してく

ださい。

```
user@cse:word> ~/p1/bin/sr a.out
```

例：hanoi.pの場合

```
user@cse:work> make
```

```
user@cse:work> ./compiler hanoi.p
```

```
user@cse:work> ~/p1/bin/asm a.asm2 > a.out
```

```
user@cse:word> ~/p1/bin/sr a.out
```